

忠清南道  
錦江  
中流部公州地方系  
第壹號土地改良地區計畫書

朝鮮總督府

11-0-1



---

請番 158105 登番  
求號 錄號

---

著者

---

書名

國會圖書館

# 第一號土地改良地區

## 一. 現況

### イ 位置地勢土質

位置 本地區ハ忠清南道公州郡正安面廣亭里内村  
里南勿里雲弓里長院里田坪里石松里ノ七箇里ニ亘  
リ公州邑内ヲ北ニ距ル四里正安川上流沿岸一帯ノ  
耕地ヲ抱容ス

地勢 地形南北ニ長キ長方形ヲ為シ東西北ノ三方  
ハ山岳丘陵ニ圍繞セラレ南ハ正安面北溪里及ヒ五  
仁里ノ耕地ニ接續ス

地勢北部ヨリ南部即チ正安川ノ流路ニ從ヒ三百分  
ノ一ノ傾斜ヲナシ又一般ニ各山麓ヨリ正安川ニ向

ヒ二百分ノ一ノ勾配ヲナシ其ノ標高ハ九十二尺ヨ  
リ百八十五尺ニ及フ  
土質 本地方ノ母岩ハ一般ニ正片麻岩ヨリナルモ  
正安川ノ沿岸即チ本地區ノ大部分ハ新生火統第四  
系ヨリナル土壤ハ表土ハ一般ニ壤土ニシテ深サ五  
寸心土モ又壤土ニシテ所々ニ石礫ヲ混ジ深サ三  
内外ナリ

口關係河川、地區附近、狀況

本地區ニ關係ヲ有スルハ正安川トス

正安川ハ其、源ヲ公州郡正安面山城里ニ發シ延長約三里ニシテ本地區ニ達シ其、中央ヲ南流シ地區、末端ヨリ約三里ニシテ錦江ニ合ス

勾配ハ約三分一、急流ニシテ河床多クハ細砂ヨリナリ所々ニ岩盤ヲ露出シ幅員概テ上流部五十分間下流部八十分間ニ達ス

既往洪水時ニ際シ調査スルニ其、洪水位ハ河川ノ堤防ヨリ平均一尺低ク徒來氾濫、害ヲ蒙リシコトナシ

八面積

計	道路其他	田	畝	地目
三九九	六〇	六二	二七七町	面積
				積記
				亭

### 三、旱水害ノ狀況

旱害 本地區ハ正安川ニ簡單ナル沢ニ箇所ヲ設ケ  
灌溉水源トナシ其ノ被灌溉面積約百六十町歩ト稱  
セラルルモ耕地面積ニ比シ流域較少ナルト導水ノ  
設備不完全ナルトニヨリ充分引水ノ目的ヲ達スル  
能ハス其ノ灌溉面積ノ大部分ハ每年用水ノ不足ヲ  
訴ヘ減收約三割ニ達ス其ノ他ノ畝ノ用水ハ凡テ之  
ヲ天水ニ俟ツノ外ナク被害ノ程度ハ降雨ノ分布如  
何ニヨリテ著シキ差異アルヘキモ各年ノ平均減收  
ハ約四割五分内外ナリ

水害 水害トシテ特ニ記スヘキモノナシ

左ニ地區全般ニ亘リ旱害ニ依ル減收率ヲ示セハ次  
ノ如シ

正安面	面名	反當收量
	平均	
一石八	平均	當年
二石八	減收量	量
一石〇	減收率	
三石六	面積	
二石七	平均總收量	
四石九八六	平年總收量	
七石七五六		

各年，平均反當收量

一石八斗

旱害十分場合，平均反當收量

二石八斗

減收量

一石

減收率

三割六分



ホ、農業状態

(一) 土地利用ノ状況

田		畠		地目	
				面積	一
		二四七町		種類	毛
		水稻		面積	作
		二四七町		反當收量	
		一八石		面積	二
六二町		三〇町		種類	毛
夏作 大豆 小豆 冬作 小麦 大麦		夏作 水稻 冬作 大麦		面積	作
五〇 一二 〇・五三 〇・三六		三〇 三〇 〇・九 一八		反當收量	
〇・六 〇・九		石		記	事
<p>麦類ハ厩肥反當百貫除 草中耕ハ二回トス 豆類ハ殆ト無肥料ニシテ 除草中耕二回トス</p>		<p>土質中庸ニシテ植付期ハ 六月中旬收穫期ハ十月下 旬肥料ハ厩肥反當二百貫 緑肥百貫除草中耕ハ三 回トス 稲ノ種類ハ主トシテ在來種 ナレド毛間々早神力多摩子 錦ヲ栽培ス</p>			

(二) 地價賣買價格小作料 (反當)

田	畝	地目	
		地	價
四〇	九六	円	上等
三〇	八〇	円	中等
二〇	七〇	円	下等
六〇	一五〇	円	上等
四〇	一〇〇	円	中等
三〇	八〇	円	下等
四	五	割	上等
五	六	割	中等
六	六	割	下等
一八	二三	円	上等
一五	二〇	円	中等
一〇	一七	円	下等
三	二	割	上等
四	三	割	中等
三	五	割	下等
		總面積對歩合	
		記 事	

小作ハ主トシテ賭租ニヨリ各年ノ收穫額ヲ上欄ノ割合ニ分ツモノトシテ公課ハ主トシテ小作人ノ負擔トス 土地改良上勞力ヲ要スルモノハ小作人ヲシテ之ヲ提供セシメ地主ハ現金ノ支出ヲ要スル場合ノ三之ヲ負擔ス其ノ他水料徴收等ニ關スル習慣ナシ

へ農業勞力過不足ノ狀況

本地方 方里當リ農家戸數ハ二百七十戸ニシテ農  
家一戸當リ耕作反別ハ番六反一畝步田三反七畝步  
計九反八畝步ニシテ又忠清南道平均ハ番八反七畝  
步田四反五畝步計一町三反二畝步ナリ

而シテ本地方ハ特ニ適當ナル副業ニ乏シキ事情ニ  
アルト現今ノ粗放ナル耕種法トニ鑑ミ農業勞力ニ  
ハ尙相當ノ餘裕アルヲ以テ開墾部ニ對スル耕作者  
ヲ移住セシムルノ要ヲ認メヌ

## 二 計畫

### イ 一般計畫

#### 總說

本計畫ハ正安川上流沿岸一帯、耕地、内用水不足セル畝二百七十二町歩、旱魃ヲ救濟シ又正安面、河邊ニ點在セル六十町歩、地目變換ヲ行ヒ其、土地、利用ヲ増進セントス其、他正安川下流沿岸一帯ノ耕地ハ尚擴大シ其、利用ヲ増進シ得ヘキヤニ認メラルルモ一般ニ地盤低ク毎年、降雨ニ際シ錦江及正安川氾濫、影響甚大ナレハ之カ救濟ニハ多大ノ經費ヲ要シ到底收支相償ハサルモ、ト認メラルルニ依リ除斥セリ而シテ叙上ノ目的ヲ達スルヲメ企畫セル概要ヲ述フレハ次、如シ

## 灌溉計畫

正安川ハ旱害ノ狀況ニ於テ述ヘタル如ク耕地ニ對スル受水面積狭小ニシテ從來自然流下水ノ灌溉面積ハ僅々ニ百六十町歩ニ過ラサルモ尚完全ナル灌溉ヲ不能成常ニ用水ノ不足ヲ訴フルヲ以テ既墾畝二百七十二町歩地目變換地六十町歩計三百三十二町歩ニ對シテハ其ノ用水ヲ貯水池ニ求ムルコト、シ正安面大山里ノ山間ニ其ノ内容積四百七十町尺ヲ有スル廣亭池ヲ新設シ其ノ集水區域三十六百八十町歩ノ水ヲ貯溜シ其ノ貯水ヲ第一用水幹線ニ導キ正安川ノ右岸高位部ヲ南走シ正安面石松里ニ至リテ正安川ニ連ヌ其ノ延長四千二百三十一間其ノ灌溉面積二百五十九町歩ナリ而シテ之カ途中正安

面内村里ニ於テ第二用水幹線ヲ分歧シ正安川左岸  
山麓ヲ南走セシメ長院里ニ至リ正安川ニ達スルモ  
、ニシテ其ノ延長一千八百二十間其ノ灌溉面積七  
十三町歩ナリ

### 排水計畫

本地區、地勢地形ニ鑑ミ排水路ハ特設セサルコト  
トシ地區、中央ヲ南流スル正安川ハ現況ニ記述セ  
ル如ク既往洪水時ニ際シテモ氾濫スルコトナキヲ  
以テ之ヲシテ排水幹線ニ當リテ又幾多ノ用水路ハ  
排水兼用タラシムル計畫トセリ  
次ニ參考ノタメ本事業施行前後ニ於ケル土地、地  
目別計畫豫定面積ヲ表示スレハ左ノ如シ

事業施行前地目別面積		事業施行後ノ計畫區域面積		備考
地目	面積	灌漑改善開	灌漑改善開	
田	六二	一	六〇	
番	二七七 <sub>四</sub>	二七二 <sub>四</sub>	一 <sub>四</sub>	
道水路 其他	六〇	一	六〇	
計	三九九	二七二	六七	
				備
				考

口、灌溉計畫

(一) 用水量

用水量、種別	植付整地用	生育期間ニ於 ケル平均所要量	最大用水量
數量	舊苗 〇.三五 新開苗 〇.三五	舊苗 〇.〇二 新開苗 〇.二四	舊苗 〇.六八 新開苗 〇.七二
算出方法		葉水面蒸發量 滲透量 有効雨量	葉水面蒸發量 滲透量 有効雨量
記	一般ニ壤土ニシテ地下水稍高シ	葉水面蒸發量ハ蒸發計、示ス蒸發量四一.〇九耗、一二二一倍トス 有効雨量ハ縮作期間降雨量八六一一耗、四五三%トス	最大用水時期ニ於ケル葉水面蒸發量ハ七八年自八月十日至八月二十日迄、蒸發計、示ス蒸發量八五.〇耗、一五倍トス

備考



本計算ニ用ヒタル蒸發量ハ自明治四十四年十二箇年間、  
水原模範場、觀測、平均トシ降雨量ハ自大正三年九箇  
年間公州種苗場、觀測、平均トス

(二) 用水源

1. 貯水池

(其ノ一)

廣亭池	貯水池名
公州郡正安面 大山里	貯水池位置
三六八〇町	集水面積
四二町	満水面積
四七〇町尺	貯一回水量
三三二町	灌溉能力
<p>最大水深三十二尺平均水深十一尺二寸          (但し最大水深三十二尺中下部二尺八耕地ニ對スル落差ニ關係上利用シ得ル水量ニシテ此水量一町尺八二回ノ貯水量中ヨリ控除シ置ケリ)</p> <p>本集水區域ハ林野約八割五分耕地約一割五分トシ林野ハ傾斜稍急ナルモ矮小ナル雜木ヲ粗生ス</p>	記  亭

(其、二)

廣亭池	貯水池名
土堰堤	構造
三九 尺	最高心高
九八 間	堤長
二一 尺	天巾
二五 三〇 割	内法 外法
八九三 立坪	容積
高三五 中三〇 二〇 尺	徑 徑 徑
二一九 四〇 尺	長 長 長
七 尺	頂高
三四七 尺	中
三〇 尺	水深
<p>記</p> <p>堤ハ土堰堤トシ法面筋石ヲ施 行シ粘土割金ヲ挿入五箇處ハ 鐵管トシシテ排水スルヲ以テ 才備ハ伏樋ハ鉄管コソリト 造トス餘水吐ハ左側山麓ノ岩 盤ヲ掘鑿シ一部土砂切取 箇所ハ線石積又ハ線石張 施又正トス 敷水路ハ餘水吐ヨリ二十五間 下流ニ於テ山麓ヲ離リ耕 地ヲ掘鑿スルコト五箇ニシテ 溪流ニ連セシム山腹ノ箇所 ハ急傾斜ナルヲ以テ線積護 岸又ハ護派工ヲ施スモノ ナ</p> <p>事</p>	

(三) 用水路

第一號幹線	全	全	第一號幹線	用水幹線
一八二。	一八。七	一五七。	八五四 間	延長
側法一割 水深一。一 底中二。〇 尺	側法一割 水深一。六 底中二。〇 尺	側法一割 水深二。〇 底中三。〇 尺	側法一割 水深二。〇 底中四。〇 尺	同上 斷面
$\frac{1}{400}$	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{500}$	勾配
七三	一五〇	二五九	三三二 町	支配 面積
六〇	一二一	二一〇	二七四 秒五尺	通水量
流込餘水吐三箇所 外落差工落差六尺、モノニケ所トシ構造 ハ玉石コンクリート造トス	流込餘水吐一ヶ所 外落差工落差六尺、モノニケ所トシ構造 ハ玉石コンクリート造トス	流込餘水吐一箇所 外落差工落差六尺、モノニケ所トシ構造 ハ玉石コンクリート造トス	流込餘水吐一箇所 外落差工落差六尺、モノニケ所トシ構造 ハ玉石コンクリート造トス	種類 位置 延長 大サ 構造 特殊工事、主ナルモノノ構造大サノ概要
鐵筋コンクリート管 全上	鐵筋コンクリート管 全上	鐵筋コンクリート管 全上	鐵筋コンクリート管 全上	鐵筋コンクリート管 全上
綠石張	綠石張	綠石張	綠石張	綠石張
	一八〇〇	一二〇〇		第二階級、用水路、總延長 間

八、地目變換，計畫

(一) 標準區劃，大形狀

地目變換地，地勢地形，鑑其，一區劃ヲ主トシ  
テ長邊三十間短邊十間面積一反歩ノ矩形トナス

(二) 道水路配置方法

各用水幹線ヨリ地勢地形ニヨリ用水支線ヲ分歧シ  
全地區、配水ニ便ナラシムルト共ニ幹支線水路溝  
畔、一側ヲ巾六尺乃至三尺、道路トナシ交通運搬  
ノ利便ヲ計レリ

二. 事業年度割

本地區、事業ハ之ヲ三箇年ニ完了スル計畫ニシテ  
其ノ年度割ヲ次ノ如ク定メタリ

事業年度	事業ノ種類	地目變換面積	備考
第一年度	貯水池築造		
第二年度	一. 貯水池築造 二. 用水路堰鑿		
第三年度	地目變換	六〇町	

木事業費

總事業費貳拾六萬參千參百圓也 (反當七九円強)

費目	金額	記
一 工事費	二二七.九〇〇 円	
(一) 用水費	一五五.七〇〇	
1. 貯水池費	一一六.〇〇〇	堰堤費 四六.四〇〇円 樋管費 一四.〇〇〇円 餘水吐及放水路費 五〇.〇〇〇円 雜費 五六.〇〇円
2. 幹線水路費	三七.三〇〇	土工費 一三.三八〇円 延長六.〇五一間 潛管費 一六.〇〇〇円 六ヶ所 分水門費 四.〇〇円 一ヶ所 暗渠費 一.二〇〇円 三ヶ所 落差工費 一.〇〇〇円 一ヶ所 流込餘水吐費 八.〇〇円 五ヶ所 土橋費 一五.〇〇円 一ヶ所 雜費 三.一〇〇円



3 主要支線費	二四〇。	土工費 一四〇。丹 延長三〇〇。間 構造物費 一〇〇。丹
(二) 地目變換費	六〇〇。	地目變換 面積六〇。町步
(三) 雜工費	三五〇。	道路村替費三五〇。町 延長一三〇。間
(四) 用地費	六一二。	野水池敷地 面積三八二町步 道水路敷地 七町步
(五) 雜費	一五〇。	家屋移轉補償 戶數一〇。戶
二 事務費	二二八。	
三 豫備費	一二六。	
計	二六三三。	

收益豫想

其一 既墾地ノ土地改良ニ依ル收益

計	畝	地 目
二七二	二七二 <small>町</small>	面 積
	一 <small>石</small>	反 當 增 收
二七二〇	二七二 <small>石</small>	總 增 收 高
	土地改良施行前畝反當一石八斗施行後一石八斗ノ見込	記  率

其二 地目變換ニ依ル收益

年次	區別	第一區		面積	收穫高	計	記
		面積	收穫高				
第三年番	六。町	二。石	二。石	六。町	二。石		
第四年番	六。町	二。四	二。四	六。町	二。四		
第五年番	六。町	二。八	二。八	六。町	二。八		

事

ト、事業費ニ對スル收益ノ割合

本事業完成前後、收益ハ左表、如クニシテ事業施行前五萬八千三百四十二圓事業施行後九萬五千一百二十圓差引收益増加ハ三萬六千七百七十八圓トナリ之ヲ總事業費二十六萬三千三百圓ニ對比セハ一割三分強ニ相當セリ

計	田				畝		地目		種作物種類	反別	栽培	反當	總收量	金額	土地改良施行		種作物種類	反別	栽培	反當	總收量	金額	單價	差引利益
	小麦	大麦	小豆	大豆	大麦	水稻	水稻	水稻							前	後								
五八三四二	二〇	四〇	一〇	五〇	三〇	二七二	二七二	四八九六	四八九六	二七〇	〇・九	二六五	二六五	二一六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三六七七八
九五一二〇	二〇	四〇	一〇	五〇	三〇	二七二	二七二	四八九六	四八九六	二七〇	〇・九	二六五	二六五	二一六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三六七七八
五八三四二	二〇	四〇	一〇	五〇	三〇	二七二	二七二	四八九六	四八九六	二七〇	〇・九	二六五	二六五	二一六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三六七七八
九五一二〇	二〇	四〇	一〇	五〇	三〇	二七二	二七二	四八九六	四八九六	二七〇	〇・九	二六五	二六五	二一六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三六七七八

六. 土地改良ノ施行カ隣接地ニ及ホス影響  
影響ナシ

